

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 「けむりのきしゃ」のえほんをつくろう

2 単元の目標

- 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読することができる。(読む)
- 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むことができる。(読む)
- 助詞や長音・促音・撥音・かぎを正しく読んだり書いたりできる。
(言語についての知識・理解・技能)

3 評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む	言語についての知識・理解・技能
<ul style="list-style-type: none"> ・さし絵にそって文章を読み、想像したことを積極的に発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・語のまとまりや響きに気を付け、登場人物の様子に合った音読の工夫をしている。 ・さし絵にそって文章を読み、場面の様子をとらえ、登場人物の気持ちになりきりせりふを考えながら読んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・助詞や長音、促音、撥音、かぎを正しく読んだり書いたりしている。

4 単元について

(1) 本単元で行う主たる言語活動

本教材「けむりのきしゃ」は、流れ星が登場するファンタジーである。場面の構成がシンプルで児童にとっても把握しやすい。また、物語全体が絵本の形式となっており、とても親しみやすい。文だけではなく、さし絵からも多くのことを読みとることができる。子どもたちは、初めにさし絵をもとに、物語をとらえたり想像をふくらませたりするだろう。その後、文章とさし絵を結びつけることでさらに想像を広げて登場人物の人柄や気持ちを読みとっていくことのできる教材である。

児童が主体的に物語の内容を想像して読み進めていくことができる授業構成にしたい。学習指導要領「C 読むこと」の言語活動例「ア 本や文章を楽しんだり、想像を広げたりしながら読むこと」を受けて、単元を通して「『けむりのきしゃ』の絵本をつくる」ことを言語活動として設定する。場面ごとに長音や撥音などが含まれた本文を視写したり、おじいさんや流れ星のセリフを自分で書いたりして自分だけの絵本を作り上げていく。物語のストーリーからはずれることなくセリフを考えなくてはならないため、さし絵をじっくり見たり、文章をよく読んだりするだろう。完成した絵本はお家の方に読み聞かせを行うというゴールをイメージさせることで、児童の意欲を高めたい。

そして、想像したセリフを、子どもたち同士で発表し合ったり、音読をし合ったりする活動を設定することで、互いの知見や考えを広げたり、深めたりする言語活動の場面としていきたい。

(2) 本単元で身に付けさせたい力

本単元は、学習指導要領1学年及び2学年の「C 読むこと」の目標「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しん

で読書しようとする態度を育てる」に基づき、指導事項ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと」を受けて設定している。そこで、本学習では、おじいさんや流れ星などの登場人物のセリフを考えることで、物語の内容を文章とさし絵を結びつけ想像をめぐらせて読む能力を身に付けさせたい。文章に書かれていることだけで物語の読みを終わらせるのではなく、文章にはなっていない部分についても、「こんなことをしているのではないか。」「こんなことを思っているのではないか。」と物語の内容を膨らませることを楽しんで読んでほしい。また、音読や視写を通して長音や促音、撥音の正しい読み方と書き方を確実に身に付けさせたい。

(3) (1) と (2) の基盤となる言語環境や継続的な取り組み

①セリフを考える活動

「なかよし」や「みつめて はなそう たのしく きこう」「くまさんとありさんのごあいさつ」などのさし絵のある単元の学習では、「どんなことをしているのだろう。」「どんな声が聞こえてくるだろう。」と想像をふくらませる活動を継続的に行っている。その中で、実際にセリフを言ってみたり、書いてみたりする学習を取り入れている。また、ふきだしに慣れさせるため、朝の準備の流れや児童への指示をふきだしの中に書き児童に毎日伝えている。「くまさんとありさんのごあいさつ」では、自分でセリフを考えてふきだしに書いた。また、ペープサートを使い、自分の考えたセリフや本文のセリフをなりきって読むことにも挑戦している。

②言葉あつめ

1年生は知っている言葉の量が少ない。そのため、習ったひらがなの入った言葉探しを行って共有したり、友達としりとりを行ったりしながら言葉の量を増やしている。また、「こえをあわせてあいうえお」や「あいうえおのうた」といった詩の学習の際にも、詩のリズムに合った言葉を考え、クラスオリジナルの詩をみんなで音読している。

5 指導計画（7時間扱い）

次	時	学習活動と内容	指導や支援の手立て ◇評価
一	1	○さし絵を見ながら全文を読み、感想を話し合う。 ○これからの学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・おもしろかったところ、おどろいたところ、ふしぎだったところなど観点を与え、感想を出させる。 ・教師のモデル絵本を見せることで、これからの学習の見通しをもたせる。 ・お家の方に完成した絵本を読み聞かせするゴールをイメージさせ、意欲を高める。 ◇感想を積極的に発表しようとしている。 【関】（発言）
二	2	○各場面のさし絵をもとに、あらすじをつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・「だれが」「どこで」「どうした」かに着目してあらすじを説明させる ◇話の大体をとらえ、あらすじをつかもうとしている。 【関】（発言）

3	<p>○第1場面(流れ星と煙突掃除のおじいさんとの出会い)での、落ちてきている星とそれを見かけたおじいさんのセリフを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの星からはぐれて落ちている星の「どうしよう」という不安な気持ちを考えさせるため、星の表情を描かせる。 ・「おじいさん」「そうじ」が含まれる文の視写と音読を行い、長音の読み方と書き方を確認する。 ・さし絵の拡大図を用意し、児童が考えたせりふをふきだしシートに書き、貼り付けて整理する。 <p>◇登場人物の気持ちを想像しようとしている。</p> <p>【読】(発言、絵本)</p>
4	<p>○第2場面(煙突に上っていき、そのてっぺんに流れ星を置くおじいさん)での、流れ星を煙突におおいておけるおじいさんと煙突の上に置かれた流れ星の気持ちを想像し、セリフを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの人柄を行動から考えるようにさせる。 ・「」は会話につく記号であることを理解させる。 ・「てっぺん」を視写し、音読することで撥音と促音の書き方と読み方を確認する。 <p>◇おじいさんの人柄のわかる行動をさし絵や言葉から想像し、セリフを考えようとしている。</p> <p>【読】(発言、絵本)</p>
5	<p>○第3場面(まきが燃え始め、煙突から煙が出てくる)での煙突の上に置かれた流れ星の気持ちを想像し、セリフを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・おじいさんの優しさを感じ取らせるために、どうしてまきをもやしているのか考えさせる。 ・ふきだしの中に自分の言葉でセリフを書かせる。 ・セリフが書けない児童には、教師が用意したセリフ候補の中から自分の思いに近いものを選ばせる。 ・文例「…は、…を…」を視写し理解させる。その際、「は」は「わ」、「を」は「お」と読むことをおさえる。 <p>◇おじいさんの行動に対して星がどのように思っているか想像し、セリフを考えようとしている。</p> <p>【読】(発言、絵本)</p>
6 本 時	<p>○第4場面(煙の汽車に乗って、空に上っていく流れ星)での流れ星とおじいさんの気持ちを想像し、セリフを考えて絵本を完成させる。</p> <p>○ふきだしを読み合う。</p> <p>○どのように読んだら良いかを考えて音読練習をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習した挿絵と本時の挿絵を見て変わったところを考えさせる。 ・空へと帰っていく流れ星や見送るおじいさんの気持ちを挿絵や文章から想像させる。 ・セリフを言うときの気持ちを考え、音読を工夫するよう助言する。 ・文例「…は、…へ…」を視写し理解させる。その際、「へ」は「え」と読むことをおさえる。 <p>◇流れ星やおじいさんの気持ちを挿絵と文章から想像し、考えようとしている。</p> <p>【読】(発言、絵本)</p>

三	7	○完成した自分の絵本を使い、音読練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 完成した絵本を使ってお家の方に読み聞かせをすることを確認し、その場面毎の気持ちを考えながら音読を工夫させる。 ◇セリフを工夫して読もうとしている。 【読】（観察）
時間外		○お家の方に絵本の読み聞かせをする。	<ul style="list-style-type: none"> お家の方に、絵本の最後に感想を書いてもらい、達成感を味わわせる。

7 本時の指導（6／7）

（1）目標

○さし絵から想像を広げ、流れ星のセリフを考える。（読む）

（2）展開

学習活動と内容	○教師の指導と支援 ◇評価
<p>1 学習の見直しをもつ。</p> <p>○本文を音読する。</p> <p>○これまでの学習を振り返り、本時の学習のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> これまでの場面で考えたセリフが書かれた掲示物を見ながら、自分だけの絵本を作っていることを思い出させる。 絵本作りに向けて、各自がイメージを持って取り組めるよう教師の絵本を見せる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>ながれぼしのきもちをそうぞうしてせりふをかながえよう。</p> </div>	
<p>2 本文を視写する。</p> <p>○「おじいさん、ありがとう。」「ながれぼしは、けむりにのって、そらへ そらへのぼっていききました。」の文を視写する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「…は、…へ…」の文例を確認し、「へ」は「え」と読むことをおさえる。 「そらへ そらへ」と2回繰り返していることに着目させ、空高くのぼっていったことを強調していることに気づかせる。
<p>3 さし絵と文から想像を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「けむりをきしゃにしてくれてありがとう。」 「もう落ちてくるんじゃないよ。」 「おじいさん、明るくなる前にありがとう。」 	<ul style="list-style-type: none"> さし絵から、どんな場面なのか考えそれぞれの気持ちを想像させる。その際、次のセリフを書く活動の時にキーワードになりそうなセリフは、絵本の拡大図に書き出し、整理しておく。 「おじいさん、ありがとう。」という本文の流れ星のセリフに着目させて、どのようなことに対してありがとうを伝えようとしているのかを考えさせる。
<p>3 登場人物のセリフを考える。</p> <p>①星の表情を描く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 星の表情を描かせることで、星の気持ちの変化を読みとり、セリフを考えるきっかけとする。描けない児童のためにいくつか表情の候補を準備しておく。

<p>②流れ星のセリフを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・優しいおじいさんに助けてもらってよかった。 ・おじいさん助けてくれてありがとう。 ・家に帰ることができてうれしい。 <p>③おじいさんのセリフを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もう落ちてくるんじゃないよ。 ・空に帰れてよかったね。さようなら。 <p>④セリフを発表する。</p> <p>4 今日の学習を振り返る。</p> <p>○今日学習したところを音読する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やさしいおじいさんの様子がよくわかるね。 ・流れ星がうれしい気持ちがよくわかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思うように書けない児童には、前の活動で出た友達のセリフに目を向けさせる。また、おじいさんのペープサートで話しかけ、心にうかんだ星のセリフを聞き出したり、教師がセリフを書いたふきだしをいくつか用意し選んで貼らせたりする。それも難しい児童には、教師のモデル絵本を見せて視写させる。 ・流れ星のセリフが考えられた児童には、おじいさんのセリフにも進めるように用意しておく。 <p>◇さし絵や文章をもとにして、流れ星やおじいさんの気持ちを想像してセリフを考えようとしている。(読む)</p> <p>◇セリフを発表しようとしている。(関心・意欲・態度)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が作ったセリフを登場人物になりきって音読できるようペープサートを準備する。 ・なりきって音読している児童を指名し、音読させる。良かった点を発言させて、音読の工夫の視点を押さえる。
---	--